

令和7年度 広島大学附属幼稚園（東広島園舎）経営方針

（１）教育機能の向上

大学教育学部の附属幼稚園については、令和6年度より三原幼稚園と共に1園2園舎の運営が展開されている。新たな組織のなかで教員養成のための職業人教育としての教育実習校の使命はもちろんのこと、国立の教職大学院が全国に配置される中で今後は職能成長を支える教員研修のための情報発信という機能を有する必要がある。これまで広島県教育委員会乳幼児教育支援センターや東広島市との連携のもとに、教員養成だけでなく、現職のための情報提供や研修実施の場として、そのような特性を活かしながら、広島大学附属教育機関の中の一園として一層の教育機能の向上を図りたいと考えている。

- 1 めざす子ども像、教育目標、年間計画の見直し（Webサイトの充実）
- 2 ポートフォリオ、ドキュメンテーションの充実
- 3 情報管理：クラウド利用の徹底
- 4 会議ペーパーレス化：非常勤職員との情報共有
- 5 安全管理：施設面の徹底、教職員による幼児の把握
- 6 事故ケガ予防（事故、ケガの原因の究明と予防策の共有）
- 7 避難訓練：自然災害、火事、行方不明など多様な事態に対応する

（２）実践・研究の情報発信源としての幼稚園

附属幼稚園は毎年開催される公開研究会、毎年刊行される研究紀要、広島大学学部附属共同研究などを通して、幼稚園教育課程や指導方法についての先導的・実験的な実践研究を全国に発信してきた。合わせて、保育公開や学会発表なども積極的に行ってきた。今後は、この点をさらに進め、校種間をまたぐ研究や、時代の要請や発達課題に応える研究開発を行うことが求められる。具体的には、本園が永年にわたって、取り組んできたESD（持続可能な発展のための教育）を基底におき、幼保小接続に関する研究、ダイバーシティ社会を前提に異世代交流・異年齢交流を通じた学びの研究、主体的で対話的で深い学びの研究を行う。併せて公私の枠、あるいは幼稚園・保育所・認定こども園の枠を越えて広げ広く地域に開かれ、更なる研究の推進を促すものとなるよう情報発信を行う。

- 1 研究の発信：保護者も含めた関係者への情報発信
- 2 保育案の提示（年間計画、月案、週案、日案の立案）
- 3 保育カンファレンスの定期的実施
- 4 三原附属幼稚園研究大会参加、保育参観
- 5 1園2園舎化の機能的運営と報告

（３）地域との連携と情報の発信

広島県においては、広島県幼児教育推進プランとして「遊び 学び 育つ ひろしまっ子！」の実現、また東広島市においては新たな幼児教育ビジョンのもとにアクションプランの実施がなされ、保育の質の向上に向けて行政が大きな役割を果たしている。本園は、附属学校という特殊性があったが、近年では子育て支援にも取り組み、また昨年ではから地域の小学校との連携を積極的におこなってきた。本年はさらにこの連携を進め、東広島市にある唯一の幼稚園として東広島市と「保育の質の向上」の課題に取り組み、その蓄積された実践と研究の経験と情報を広く発信し共有していく。

- 1 園庭開放の拡大
- 2 多様な子育て支援の実施
- 3 グローバルデイの充実（多文化を知る）
- 4 年長児の小学校体験
- 5 小学校児童との交流
- 6 他園の幼児の自然体験のための園庭開放
- 7 園長による卒園児小学校連携